エアゾール缶用穴あけ機　アエロソルブ

AEROSOLV 取扱説明書

この取扱説明書は、製造元の許可を得て、当社が日本のユーザー向けに作成したものですが、製造元の責任の全てを、この取扱説明書によって当社が負うことを意味するものではありません。
必ず、製造元発行の取扱説明書（日本語訳一部添付）もお読み下さい。
御質問･お問い合わせは当社 担当営業までお気軽にどうぞ。

穴あけユニットについている警告ラベルは、絶対に取り外さないで下さい。
また、本取扱説明書の 4 ページと同一内容の警告シールを添付しましたので、作業場所の良く見えるところに貼ってください。

輸入元　**三洋貿易株式会社 化学品部**

東京都千代田区神田錦町 2-11 三洋貿易ビル 〒101-0054
TEL(03)3233-5835
FAX(03)3292-0530

発売元　**大洋液化ガス株式会社 ガス営業部**

東京都中央区日本橋堀留町 1 丁目 3 番 21 号 〒103-0012
TEL (03) 3667-5203
FAX (03) 3667-5206

AEROSOLV の取り付け

AEROSOLV を操作する前にコンビネーションフィルターと帯電防止ワイヤを取り付ける。

穴あけユニット　支え板がドラムの縁にしっかり掛かるまで右回りに回して 2 インチの栓に取り付ける。

ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾌｨﾙﾀｰ　ドラムの 3/4 インチの栓に直接取り付ける。

帯電防止ワイヤ　帯電防止ワイヤの環の端子を AEROSOLV 支え板の真鍮のネジに取り付ける。

帯電防止ワイヤのわにロクリップを、近くの確実なアース源に取り付ける。

例：金属パイプ

※OSHA(Occupational Safety and Health Administration 職業安全衛生局)は静電気の蓄積を防止する為に、液体貯蔵容器にはアースをするよう求めている。AEROSOLV の装置には使用者の便宜のため、帯電防止ワイヤを付けている。

AEROSOLV の使用法

１．ピンの確認

穴あけ処理しようとする缶の口径が適合している物である事を確認する。

(40φ以下の缶の場合は、オプションの小径缶用穴あけピンに交換する。)

２．缶のセット

ノズルの先端を下にして、缶のショルダーがガスケットに密着する様に、エアゾール缶を穴あけユニットのスリーブ管に挿入する。(大型のボタン・スパウトは取り外すこと。缶の肩のハカマも同様)

1インチのミニ缶の場合、缶のショルダーをガスケットの奥に押す。挿入前にキャップが缶から外されていることを確認すること。

２１１径よりも太い缶の時は、穴あけユニットから白いスリーブ管を外して挿入する。

２０２ネックイン缶の場合、缶の巻き締め部分にピンが当たるので、通常とは逆に正立のまま挿入し、缶の底部側面に穴を開ける。プレートでボタンを押し、内容物が噴出しないようにキャップをしたまま処理すること。

３．ガスケットの確認

缶とガスケットが隙間なく取り付けられていることを確認すること。もし、隙間がある場合には缶のサイズに合ったガスケット（オプション）に交換すること。

４．缶の固定

一番上のプレートを降ろしてプラスチックのスリーブ管あるいはジャンボ缶の底にしっかりと掛ける。固定取っ手をしっかり締める。

５．穴あけ

ハンドルをしっかりと下に押してからはなす。残留液をドラム内に排出させるよう、打ち抜いた缶を取り外すまで 20 秒待つこと。

未使用または使い切っていない缶を打ち抜く場合、排出圧力をやわらげるために打ち抜きの時、ハンドルを数回ポンピングすることにより最良の結果が得られる。

作業終了時の処理

打ち抜いた缶を取り外した後、穴あけユニットの一番上のプレートを降ろして、プラスチックのスリーブ管の上に置く。（ガス、溶剤蒸気の逆流、また外部からの異物の混入を防ぐため）ジャンボ缶のときはプレートを降ろす前にスリーブ管を戻しておく。

活性炭カートリッジは圧力の増大を除去し、VOC を吸収し、ドラム内への、またドラムからの流入を容易にし、貯蔵ドラム上でドラム通気孔としての用途に転用できるので取り付けたままにしておくことが望ましい。
ドラムに入っている残留液にはガスが溶解しているので、処理直後に密封したり、高温下で保管しないこと。

AEROSOLV のメンテナンス

グリースの注入

先端がカーバイドの打ち抜きピンを定期的に洗浄し、グリースを注すことにより長期間の使用が出来る。絶え間ない大量使用のもとでは、打ち抜きピンを月に一度洗浄しグリースを注すこと。（グリース注入を怠るとピンの寿命の前に O リングが破損し、ピンを交換することになる。）
打ち抜きピンを洗浄又は交換するときは、ハンドルの一番上でブリッジピンを取り外す。ハンドルの装置全体と打ち抜きピンを外すことが出来る。

ガスケットの交換

エアゾール塗料や強い溶剤を打ち抜く場合、ガスケットの劣化が生じ、定期的なガスケットの交換が必要となる。AEROSOLV 使用中に適切な密閉を確実なものにするには、頻繁にガスケットをチェックし必要に応じて交換すること。
交換は単に古いガスケットを引き出して交換品を入れる。

コンビネーションフィルターの交換

活性炭カートリッジ(上部ユニット)は 45-60 日毎に取り替える。（最低 1 ドラム毎）
その場合は、合体カートリッジを左回りに回して使用済み活性炭カートリッジを外す。
（主に、臭気の除去目的に装着されているので、作業中に効果が減少したら交換する。）
合体カートリッジは 6 ヶ月毎に交換する。
交換する際は、合体カートリッジと活性炭カートリッジを含むコンビネーションフィルターを注文すれば良い。

AEROSOLV　　注意！

○コンビネーションフィルターが取り付けられていない時は操作してはならない。
○塗料と溶剤が入ったドラムには水酸化物を収集しないこと。
水酸化物（オーブンクリーナーの成分である水酸化ナトリウム及び水酸化カリウム）は他の物質と混合した時に熱を発生させる。
○パウダースプレー（例：デオドラント）は打ち抜いてはならない。
これらは静電気を起こし自己発火を起こす。
○殺虫剤、除草剤その他有害物質を収集する時は EPA（米国環境保護庁）のガイドラインに従う。
○喫煙中又は火炎の近くで操作してはならない。
○火気、火花の出る作業を近くで行ってはならない。
○作業開始前に、穴あけユニット・コンビネーションフィルターが正しく装着されていることを確認する。
○ドラムを正しくアースするために帯電防止ワイヤを取り付ける。
○収集ドラムに充分な空き容量があることを確認する。収集ドラムが 70%まで一杯になったならば AEROSOLV を空ドラムに移すこと。(200Lドラムを使用すること。)
○AEROSOLV 使用中は安全眼鏡を使用すること。
○打抜く缶に対して常時カバープレートを掛けておくこと。
○打抜いた缶を取り除いた後、カバープレートを下げること。
○ドラムに溜まった、残留液には可燃性ガスが残留しているので、作業直後に密閉してはならない。

喫煙中又は火炎の近くで AEROSOLV を使用しないこと。

使用法

1．　穴あけユニットを、支えの脚部がドラムの縁にしっかり取り付くまで、2 インチの栓の口に直接取り付ける。
2．　コンビネーションフィルターを、3/4 インチの栓の口に直接取り付ける。
3．　帯電防止ワイヤを、穴あけユニットの取付ネジと近くのアース源に取り付ける。
4．　エアゾール缶からキャップを外す。穴あけユニットに缶の上部を下にして挿入する。逆さまになった缶の底部が、しっかりと掛かる様カバープレートを降ろす。つまみを回して正しく固定する。
5．　ハンドルを掴み一回強く押し上げる
内容物入りの缶：　缶が空になるまでポンプ運動の様にハンドルを外して押す。
使用済みの缶：　　ハンドルを速やかに外す。
6．　残留内容物がなくなるのに 10-20 秒見ておく。それからカバープレートを持ち上げ、缶をリサイクルする。